

たかつな

発行責任者 石井 良治
平成27年12月25日(金)

自分たちが創る活動へ

来年度の活動がさらに充実するために



第2回地域との交流まとめの会が実施されました。各クラスから活動内容の報告と活動の成果が発表され、どの場所でも充実した活動ができたようでした。生徒にとって満足いく成果が得られたのは、それぞれの活動場所でご支援いただいた地域の皆様のおかげです。ありがとうございました。

昨年度から「地域との交流」活動が始まりました。2年目は活動報告だけでなく、「よりよい交流とするために」全校で話し合いをする場面を設けました。

<活動場所について>

- ・ 同じ場所だからこそ気づくことがあるので、同じ 場所でいいのではないか。
- ・ 室内だけでなく外の活動もしてみたい。
- ・ 早めに活動場所を決めて、内容を充実させたい。

<活動内容について>

- ・ 奉仕活動、交流活動をバランスよくしたい。
- ・ 人との交流もあり充実していた。
- ・ 地域の方との距離が縮んだ。
- ・ 交流できる人の範囲を広げたい。
- ・ 地域の方と工作などしたい。



<活動の決めだしについて>

- ・ 分担を先に決めておきたい。

真剣に活動できたからこそ、よりよい活動にしたいという前向きな意見が出されました。2年間の活動を通して、先生から言われてやる活動から、自分たちが考えて動く活動になりました。この前向きな気持ちを大切にして、自発的な活動にしていこうという姿勢をもっと高めていくと、来年度の活動がさらに充実すると思いました。3年目の地域との交流がどんな活動になるのか見守り、支援していきます。

不自由さ知って その気持ちに近づく

1学年 福祉体験

1年生が福祉体験として、アイマスクと車いす体験をしました。

ふだん経験できない不自由さを知ること、視覚障害を持っている人や車いすでの生活をしている人の気持ちに近づくことができました。また、自分にできそうなことや身の回りの環境に目を向けるよい機会となりました。

- ・何も見えない状態で歩いたり、階段をのぼったりおりたりするのがとてもこわかった。
- ・何も見えないと怖い不安でした。まっすぐ進んでいるかがわからなかったです。
- ・話しかけてくれると安心した。
- ・ほんの少しの段差でもすごくびっくりした。
- ・私たちは普通に過ごしているけど、目の不自由な人たちはとても大変な思いをしていることがわかった。
- ・こわいので、全然前に進めなかった。これが「普通」で生活している方はとてもすごいと思った。
- ・足の感触とガイドヘルプ以外に頼るものがないのでとても怖かった。
- ・目の不自由な人の気持ちがよくわかった。
- ・普通に目が見えることは当たり前じゃないんだと思った。



アイマスク体験中

目かくしをして廊下を歩いてみました。

<ガイドヘルプをした時>

- ・ゆっくり歩かなければならないことが大変だった。
- ・上手に誘導することができなくて難しかった。
- ・場所などを正確に伝えることが大事だと思った。安心してもらえるような声かけも大事だと思った。

3年生から2年生にバトンタッチ

生徒総会で、学校の顔としてがんばってきた3年生から2年生に生徒会のバトンが渡されました。

本年度の活動に対して、「〇〇週間は生活が向上したのでぜひ続けてほしい」「もっと〇〇なことができるとさらによくなる」など時間を大幅に超えるほど意見が出され、全校生徒の生徒会活動への意識や、来年度への意欲の高さが見られる生徒総会となりました。

本年度の生徒会は、日常の委員会活動に誠実に取り組めていました。また、春に行われた役員によるあいさつ活動をスタートとして、生徒会役員や3年生を中心として、夏のサルビア園の草取りには当番に関係なく参加する姿、若鷹祭に向けて取り組む姿、毎日黙々と清掃に取り組む姿、そんな姿が見られました。言葉ではなく行動で学校を引っ張ってくれた3年生でした。お疲れ様でした。



3学期からはバトンを受けとった1・2年生の出番です。追いかけていた3年生をどうやって越えていくのか楽しみです。新生徒会の役員を中心に、どんな高綱中学校をめざしていくのか考えて、それを少しずつ行動に移して行ってほしいと願っています。保護者の皆さん、地域の皆さん、応援よろしくお願いします。

